

野広尾横穴墓群

福岡県八女郡立花町大字北山所在遺跡の調査

立花町文化財調査報告書

第11集

2006

立花町教育委員会

の びろ お
野 広 尾 横 穴 墓 群

福岡県八女郡立花町大字北山所在遺跡の調査

立花町文化財調査報告書

第11集

立花町教育委員会



写真1 野広尾横穴墓群及び周辺の遠景（南東より）

序

本書は、平成16年度の県営中山間地域総合整備事業圃場整備に伴い、平成16年12月から立花町教育委員会が実施した野広尾横穴墓群の発掘調査報告書です。

野広尾横穴墓群は、福岡県内でも横穴墓が多く見られる矢部川以南に位置している横穴墓の一つで、矢部川が辺春川と合流する付近から南に700mのところにあります。調査の結果、わずかではありますが古代の遺構や遺物が確認され、昭和61年度に調査された鬼隈横穴墓、昭和62年から平成6年に調査された小倉谷横穴墓同様、大変貴重な資料を得ることができました。

最後に、この調査にあたりまして、福岡県教育委員会をはじめ、作業に携わって頂いた方々とそのほか多くの皆様のご指導、ご協力に厚くお礼申し上げます。そして本書が文化財の保護と研究資料の一助になれば幸いです。

平成18年3月31日

立花町教育委員会
教育長 井上知巳

例 言

1. 本書は平成16年度から17年度にかけて調査を実施した、福岡県筑後農林事務所が事業主体の県営中山間地域総合整備事業圃場整備により破壊される福岡県八女郡立花町大字北山所在の野広尾横穴墓群（福岡県遺跡分布地図No.720159-720162）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、立花町教育委員会が主体となり福岡県教育委員会の協力を受けて実施した。
3. 遺構の実測は、齋部麻矢、末継彬子、月足まつみが中心に行った。遺構の写真撮影は、齋部、川島幹夫、末継が行い、空中写真・地形測量は株式会社九州航空に委託した。
4. 遺物の実測は、末継、濱田美紀が行い、写真は川島が当たった。
5. 出土遺物・写真・実測図は全て立花町教育委員会に保管している。
6. 本書で用いる遺構図の方位は全て国土座標Ⅱ系による座標北である。
7. 本書の編集は末継が行った。

本文目次

I はじめに	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 発掘調査の記録	7
IV まとめ	12

挿図目次

第1図	野広尾横穴墓群周辺遺跡分布図（1/25,000）	3
第2図	野広尾横穴墓群周辺遺跡分布図（1/10,000）	4
第3図	野広尾横穴墓群調査区地形測量図（1/1,000）	5
第4図	1号横穴墓実測図（1/60）	6-7
第5図	1号横穴墓前庭部土層図（1/60）	9
第6図	1号横穴墓出土遺物実測図（1/3）	11

写真目次

写真1	野広尾横穴墓群及び周辺の遠景(南東から)	巻頭
写真2	野広尾横穴墓群調査区全域	2
写真3	野広尾1号横穴墓付近（東から）	6
写真4	調査区全域（西から）	6
写真5	1号横穴墓玄門左側工具跡	7
写真6	1号横穴墓(東から)	8
写真7	1号横穴墓玄室	8
写真8	1号横穴墓玄室から羨門を望む	9
写真9	1号横穴墓出土遺物	10
写真10	1号横穴墓出土遺物(陶器)	11
写真11	発掘調査作業風景	12

I はじめに

野広尾横穴墓群は、飛形山（標高449.9m）から北西側に派生する数多くの丘陵上の一角に築造されている。1980年刊行の福岡県文化財分布地図によると、野広尾横穴墓群は1号から4号までであり、2号から4号横穴は消滅となっている。平成16年7月に立花町農政課より、県営中山間地域総合整備事業で圃場整備をするため、確認調査の依頼があった。この事業は、農業の生産基盤の整備を中心しつつ、農村の生活環境基盤の整備を総合的かつ一体的に実施するもので、平成16年度から21年度までの6ヵ年計画であり、実際工事を行うのは平成17年度から20年度になる。この依頼を受けて現地踏査を行ったところ、横穴墓1基を確認した。この1基はおそらく野広尾1号横穴墓であると考えられた。西側に並行してのびる丘陵には稲荷山横穴墓（約28基）があり、この丘陵にも他に横穴墓があるだろうと考えられたため、重機による確認調査を9月下旬から実施した。その後、福岡県筑後農林事務所、町農政課、地権者、町教育委員会、福岡県教育庁南筑後教育事務所で協議を重ね、平成16年12月21日より発掘調査を開始することとなった。発掘調査及び1号横穴墓実測・写真撮影は平成16年度～17年度まで実施し、整理作業は平成17年度に行った。

調査期間：平成16年12月21日～平成17年7月29日

調査面積：約6,345㎡

調査の組織

立花町教育委員会	総括	教育長	井上知己
	社会教育課	課長	中尾信幸
		係長	川島幹夫
		主任主事	末継彬子
福岡県教育委員会	文化財保護課	係長	小池史哲
	（調査第一係）	主任技師	岸本 圭（平成17年度）
	南筑後教育事務所	技術主査	齋部麻矢（平成16年度）

発掘調査及び整理作業に従事していただいた方々（五十音順敬称略）

石生谷亜雄 石生谷智子 梅野百合 月足まつみ 錦戸良恵 濱田美紀 松本由紀 真鍋敏也

なお、調査においては多くの方々にご指導、ご協力いただきました。以下にお名前を記し、感謝の意を表します。（五十音順敬称略）

赤崎 敏男	小池 史哲	古後 憲浩	佐々木四十臣	猿渡 真弓
杉本 岳史	田村 悟	塚本 映子	堤 伴治	福本 寛

Ⅱ．遺跡の位置と環境

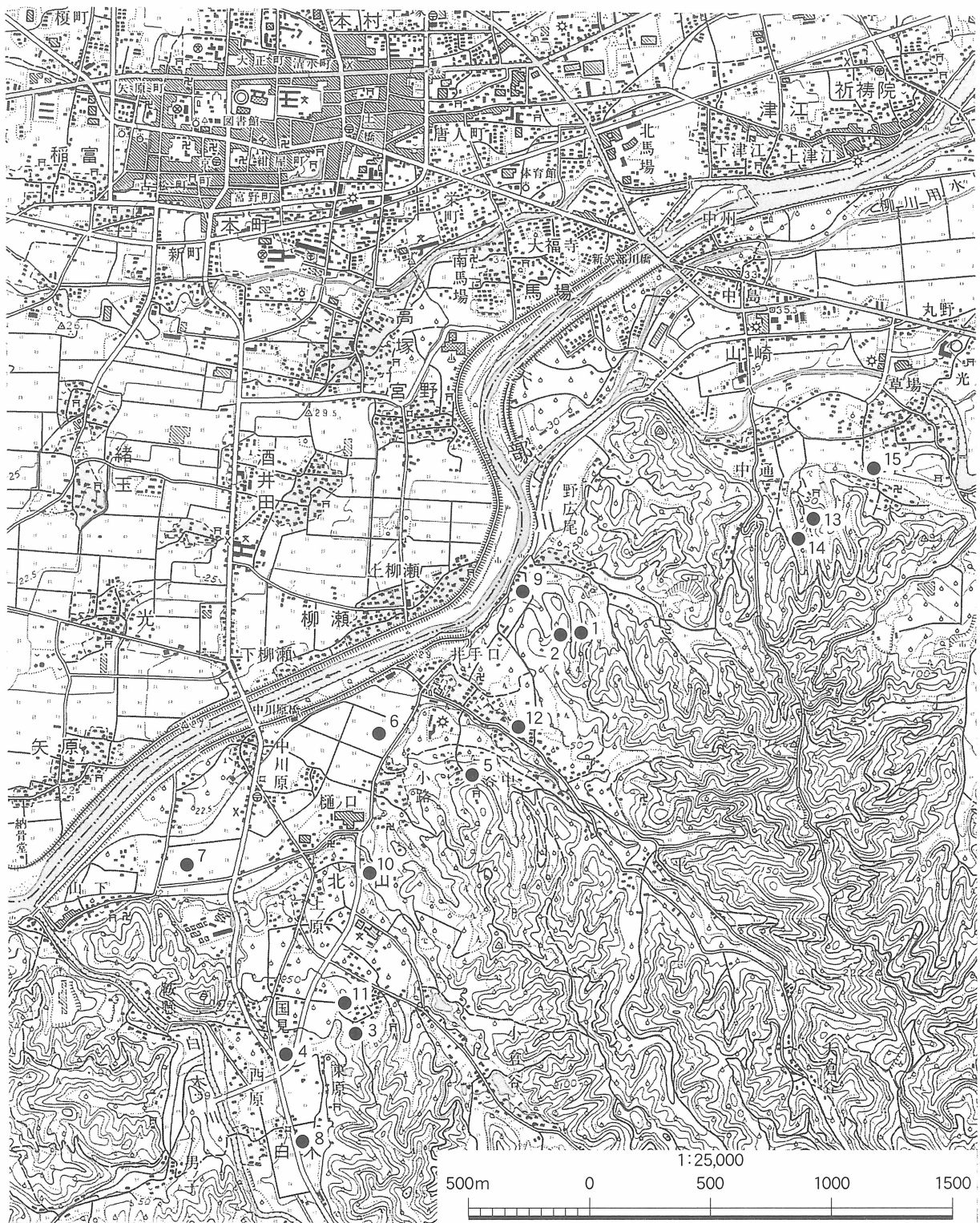
立花町^{たち はなまち}は福岡県の南西部にあたり、南東は熊本県山鹿市^{やま が し}、南は熊本県和水町^{なごみ まち}と県境を接している。町の北端を形成するのは矢部川^{や べ がわ}であり、東部には辺春川^{へ ばる がわ}、西部には白木川^{しら き がわ}が流れているが、ともに矢部川の支流である。町中央部には飛形山^{とびかた やま}が位置し、ここから伸びてきた丘陵が町の大部分を構成する。この地形を生かして、たけのこ、みかん、キウイ等の果樹園が広がる。

野広尾横穴墓群^{の びろ お}は、町の北西部に位置し、標高60m位の丘陵に位置する。周辺には古墳時代の遺跡である野広尾遺跡や、稲荷山横穴墓群^{いな り やま}などがある。稲荷山横穴墓は当町唯一の装飾横穴墓であり、18号横穴墓の羨道右壁に舟の線刻が施されている。矢部川中流域は、福岡県内では遠賀川流域^{おん が かわ}とならんで横穴墓が多く存在する地域であり、立花町の西側に隣接する瀬高町^{せ たかまち}には約160基もの横穴墓が見られる。立花町にも浦田横穴墓群^{うら だ}、町指定文化財である鬼隈横穴墓群^{おに くま}、小倉谷横穴墓群^{こ ぐらだに}など約150基がある。稲荷山横穴墓群、野広尾横穴墓群は小倉谷横穴墓群と同じく玄室内部に「コ」の字形屍床があることが確認されており、これは肥後地域の横穴墓との関連が考えられる。

立花町にある集落跡については、縄文時代早期の土器が出土した北山小学校遺跡、縄文時代早期から近世にかけての遺構を検出した白木西原遺跡^{しら きにしばる}、縄文時代晩期の甕棺をはじめ中世の輸入陶磁器が出土した北山今小路遺跡^{いま こうじ}、弥生時代後期前半の住居跡が見つかった曲松遺跡^{よごまつ}などがある。町内での古墳時代の集落跡は、北山今小路遺跡、北山八竜遺跡、白木西原遺跡で確認されており、何れも古墳時代後期に属している。



写真2 野広尾横穴墓群調査区全域



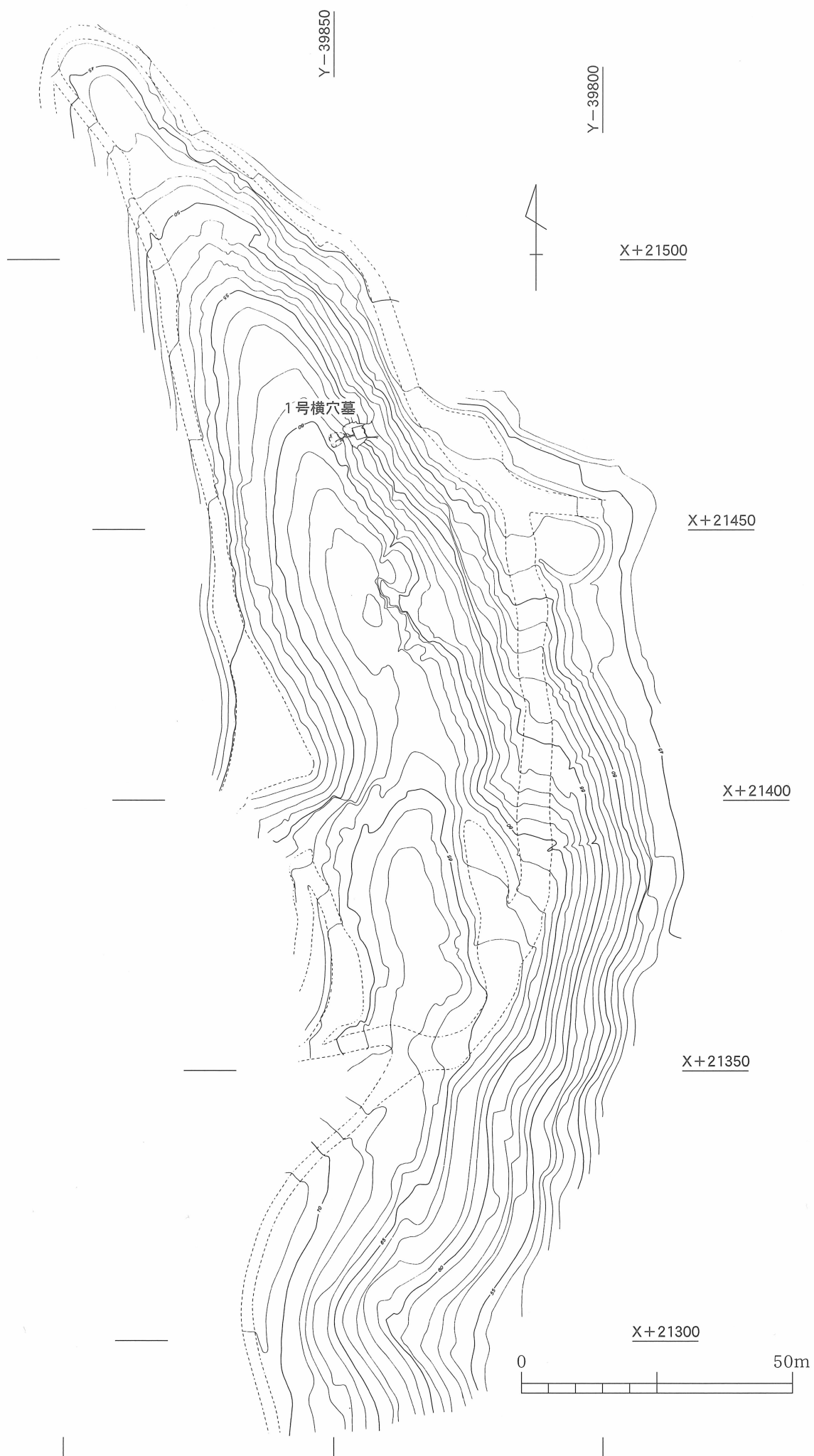
- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 野広尾横穴墓群 | 2. 稻荷山横穴墓群 | 3. 小倉谷横穴墓群 | 4. 大塚古墳 |
| 5. 六所宮古墳群 | 6. 北山八竜遺跡 | 7. 北山今小路遺跡 | 8. 白木西原遺跡 |
| 9. 曲松遺跡 | 10. 今出坂古墳 | 11. 茶臼塚古墳 | 12. 谷中1号墳 |
| 13. 鬼隈横穴墓群 | 14. 中通横穴墓群 | 15. 草場横穴墓群 | |

第1図 野広尾横穴墓群周辺遺跡分布図 (1/25,000)



- | | |
|------------|-------------|
| 1. 野広尾横穴墓群 | 9. 六所宮 3号墳 |
| 2. 稻荷山横穴墓群 | 10. 幾野々原遺跡 |
| 3. 曲松遺跡 | 11. 北山八竜遺跡 |
| 4. 谷中 1号墳 | 12. 北山浄清田遺跡 |
| 5. 谷中眼鏡橋 | 13. 千間土居 |
| 6. 笹が平古墳 | 14. 野広尾遺跡 |
| 7. 六所宮 1号墳 | 15. 枯木谷古墳群 |
| 8. 六所宮 2号墳 | |

第2図 野広尾横穴墓群周辺遺跡分布図 (1/10,000)



第3図 野広尾横穴墓群調査区地形測量図 (1/1,000)

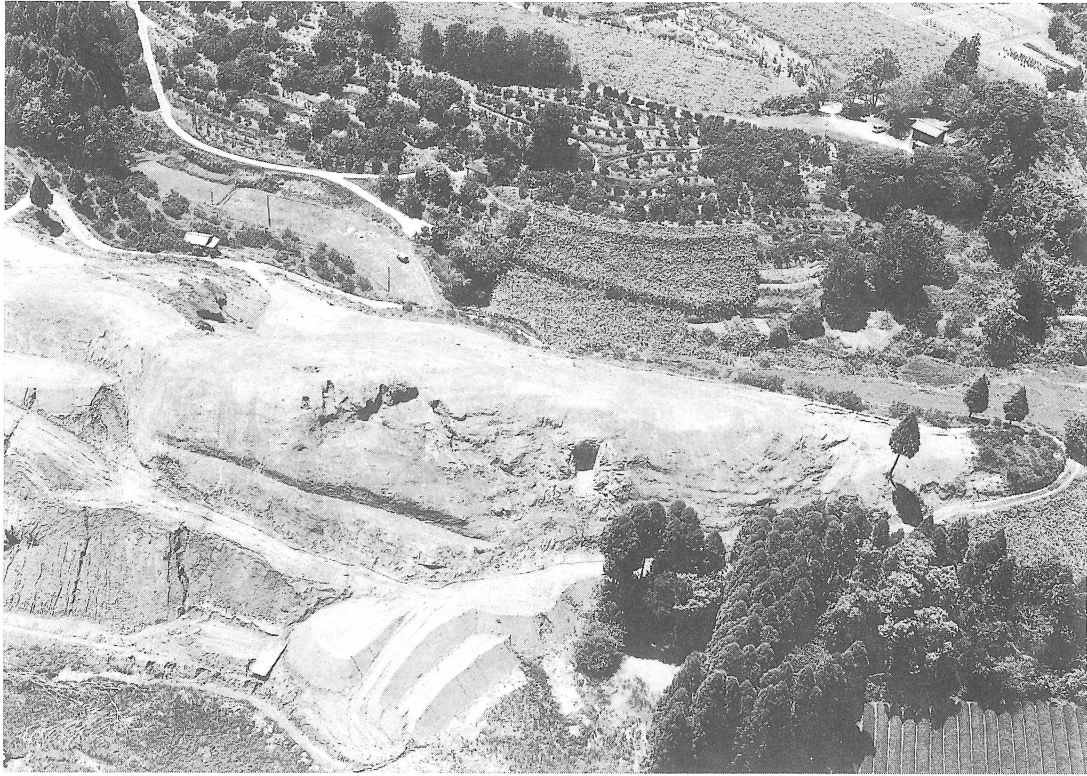
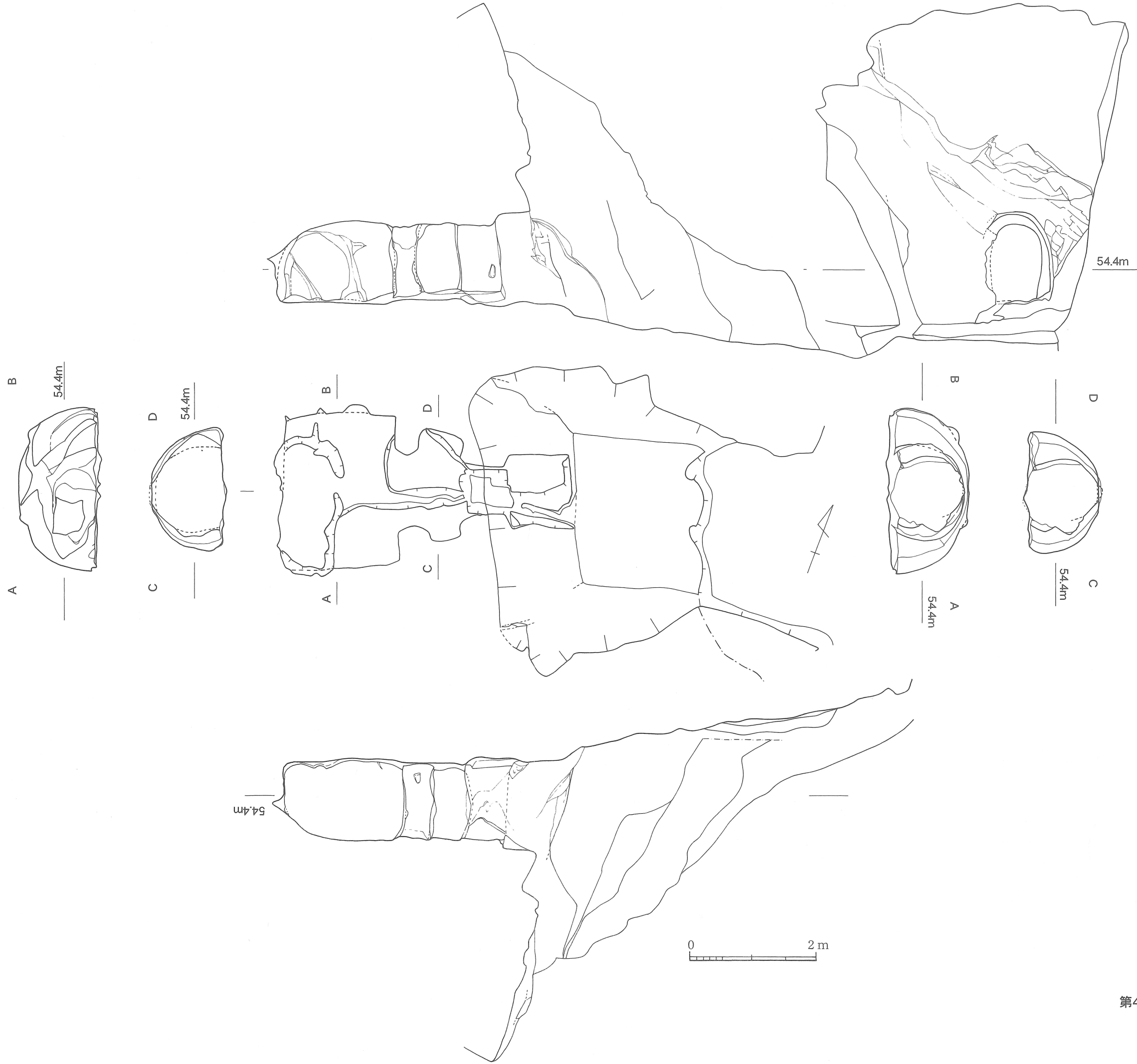


写真3 野広尾 1号横穴墓付近（東から）



写真4 調査区全域（西から）



第4图 1号横穴墓实测图(1/60)

Ⅲ. 発掘調査の記録

(1) 調査の概要

野広尾横穴墓群は、福岡県八女郡立花町大字北山字大迫5307-19外に所在し、標高約64mの丘陵にある。この調査は県営中山間地域総合整備事業（大倉谷Ⅱ工区）という圃場整備事業にともなう発掘調査で、福岡県筑後農林事務所の依頼を受けて行った。工事面積25,517㎡に対し、北側から6,345㎡を調査対象範囲とした。これは、北側部分が主に掘削されるためである。調査期間は平成16年12月21日～平成17年7月29日まで実施した。調査地は当時みかん畑であったため、まず重機による果樹木の伐採から行った。伐採を終え、重機による表土除去、遺構検出、掘削、実測、写真撮影等の作業を行った。調査地区の西側斜面には遺構は検出されなかった。この丘陵の西にある稲荷横穴墓群においては西側斜面には2基、東側斜面に23基確認されているため、この丘陵についても遺構は東側に多くあるだろうと推測された。遺構検出の際には、ピットを数箇所検出したが、掘削してみると何の遺物も検出されず人為的な跡もないため、遺構とは見なさなかった。調査の結果、すでに開口していた横穴墓1基とそれに伴う須恵器・土師器等の遺物が出土した。

(2) 遺構

1号横穴墓（第4図）

1号該横穴墓は分布調査時にすでに確認されていたもので、調査区の東側斜面の中段に位置する複室の横穴墓であり、東に開口している。

玄室の平面形状は方形を呈し、中央幅が2.45m、長さは約1.75m、天井までの高さは1.30mを測る。奥壁は3分の2ほど崩壊している。立面形態は四隅に稜線をもつものの、棟を形成しておらずドーム状である。奥壁側には溝を掘り込んで楕円形を呈していることから、屍床を意識したと考えられなくもない。溝は、左側は側壁に沿って掘り込まれており、右側は側壁より0.35mほど手前に掘り込まれている。溝の中央部分はつながっていない。

玄室の左側の溝より前室にかけて、玄室右側の玄門より0.20m奥壁側から前室にかけては、一段高くなっている。前室においては一段高くなっている床面が大半であり、下場は溝のように見えるほど狭まっている。

前室に通じる玄門幅は約0.35m、高さは1.15mである。前室は幅1.75m、右側の長さ0.60m、左側の長さ0.55mのドーム状で、平面形状はわずかに左側が狭い。天井までの高さ1.18mで、羨道部は一段低くなり、羨門の床面は右側のみ高くなっている。玄室の通路部分は一段低く掘られているが、両端は玄室の床面とほぼ同じレベルの段状になる。玄門の左壁下の床面には、工具の跡が残っている。玄室においても、側壁下には所々のみの跡が淡く残っている（写真5）。



写真5 1号横穴墓玄門左側工具跡

前室においては、両端が通路部分より10～18cm高い。羨道部から羨門にかけては緩やかにレベルが下がっており、同じ傾斜で前庭部の裾に向かっている。羨門の飾縁は整美なアーチ形をなすが、左側3分の1は崩壊している。



写真6 1号横穴墓（東から）

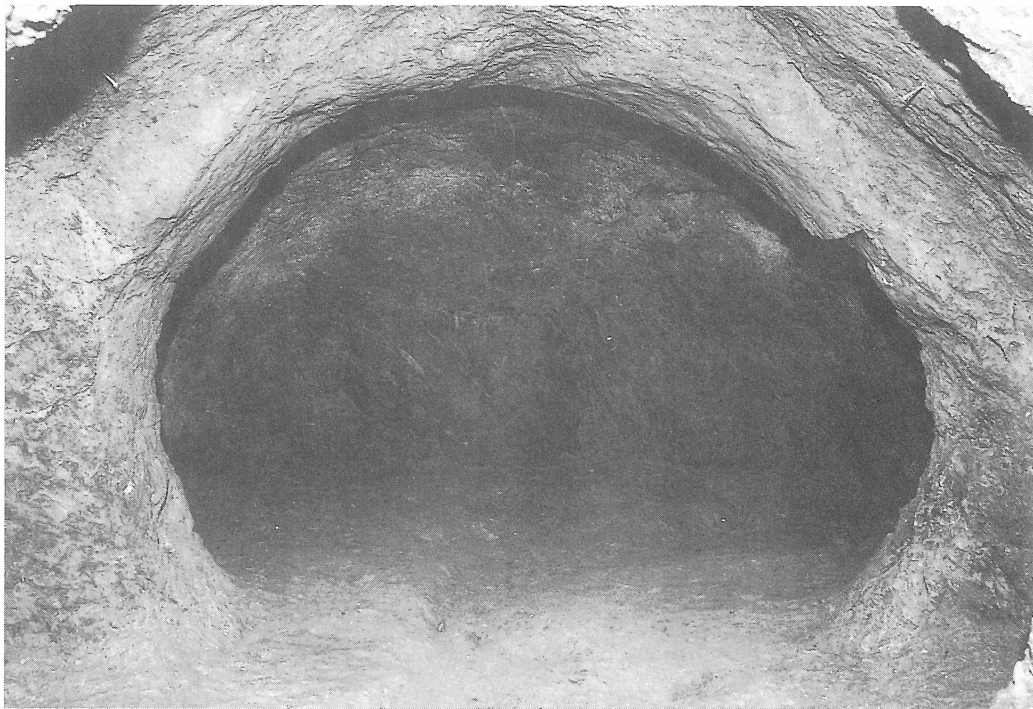
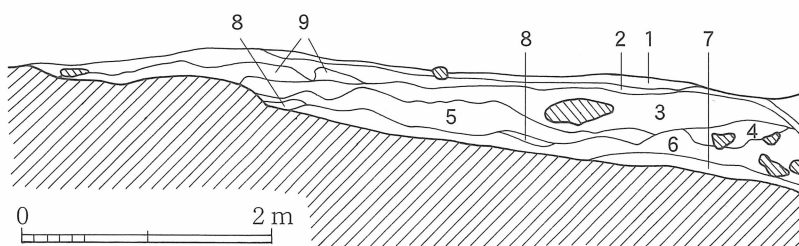


写真7 1号横穴墓玄室



写真8 1号横穴墓玄室から羨門を望む

前庭部においては、羨門の左側の壁には部分的に稜線が見えるが、右側の壁はちょうど稜線のある角部分が崩壊していたため確認できなかった。前庭部掘削時には、東側半分を残し、南側の床面を出して土層観察をした（第5図）。古い順から1段目（7）、2段目（6）、3段目（4・5・8）、4段目（3）、5段目（9・2）、6段目（1）と埋没している。出土した土器は大部分が1号横穴墓の前庭部からであり、主に土層1から6までの中に土器が混じる。特定の土層ではなく、各層から須恵器、土師器が出土し、陶器が共伴することから、この埋土は攪乱層であると見られる。前庭部にはみかんの樹木が植えられていたが、床面はそのレベルからさらに0.68m下がる。1号横穴墓は早くから開口していたため、玄室内からは遺物は1点も出土していない。地元の方の話では開口していた1号横穴墓から昔土器等を持ち帰ったそうだが、現在の所在は特定しえない。また、前庭部左側の床面のみ川原石が壁にそって並んでいた。



- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1. 赤褐色土（表土） | 6. 明橙色土（やや粘性あり） |
| 2. 灰茶色土（表土、調査前のもの） | 7. 6より黒い（炭が混じる） |
| 3. 明赤橙色土（崩落した岩を含む） | 8. 淡茶色土（ややしまりがいい） |
| 4. 明橙褐色土（3より若干しまる、崩落した岩を含む） | 9. 黄茶色土（粘質土） |
| 5. 4よりやや淡色（崩落した岩を含む） | |

第5図 野広尾1号横穴墓前庭部土層図（1/60）

(3) 出土遺物

1号横穴墓出土遺物(第6図)

須恵器

坏蓋(1) 口径12.0cm、器高4.7cmを測る。色調は外面が淡茶褐色、内面が黄灰色を呈し、胎土は精選され、焼成は良好である。調整は、外面天井部に回転ヘラケズリ、他は回転ナデ、内面は回転ナデ、天井部はナデの調整である。口縁部と体部の境に段はなく、体部は丸みをおびている。口唇部内面には幅広い段をつくる。天井部には2本の並行する不明瞭な沈線があるが、ヘラ記号の可能性が考えられる。

坏身(2) 口径12.0cm、器高4.7cmを測る。色調は外面が淡赤灰色、内面が青灰色を呈し、胎土は細砂粒わずかに含む。焼成は良好である。外面底部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ、内面底部はナデの調整である。口縁部の立ち上がりは長く、体部から底部の張りは少なく、口唇外部にわずかに段をなす。外面底部のヘラ記号は不明瞭だが「×」印か。

坏蓋(3) およそ半分が欠損しており、復元口径12.2cm、器高3.4cmを測る。色調は外面が黒灰色、内面が灰黒色を呈し、胎土は1mm以下の白色粒子をやや多く含む。焼成は良好である。外面天井部の調整は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ、内面天井部はナデ仕上げである。口縁部は若干開き、扁平な作りである。口唇部内面は幅広い段をつくる。外面天井部にはヘラ記号があり、「×」印である。

坏身(4) 口径10.6cm、現存する器高は4.6cmを測る。色調は外面が青灰色、内面が灰褐色を呈し、胎土は砂粒をほとんど含まず、焼成は良好である。外面の底部はハケ調整後に回転ヘラケズリである。他は回転ナデ仕上げである。口縁部の立ち上がりは長く、(2)に比べるとより直立する。外面底部のヘラ記号は(2)(3)と同様「×」印である。

坏蓋(5) 口縁部の細片で、口径11.6cmを復元し、現存する器高は3.2cm、天井部を欠く。

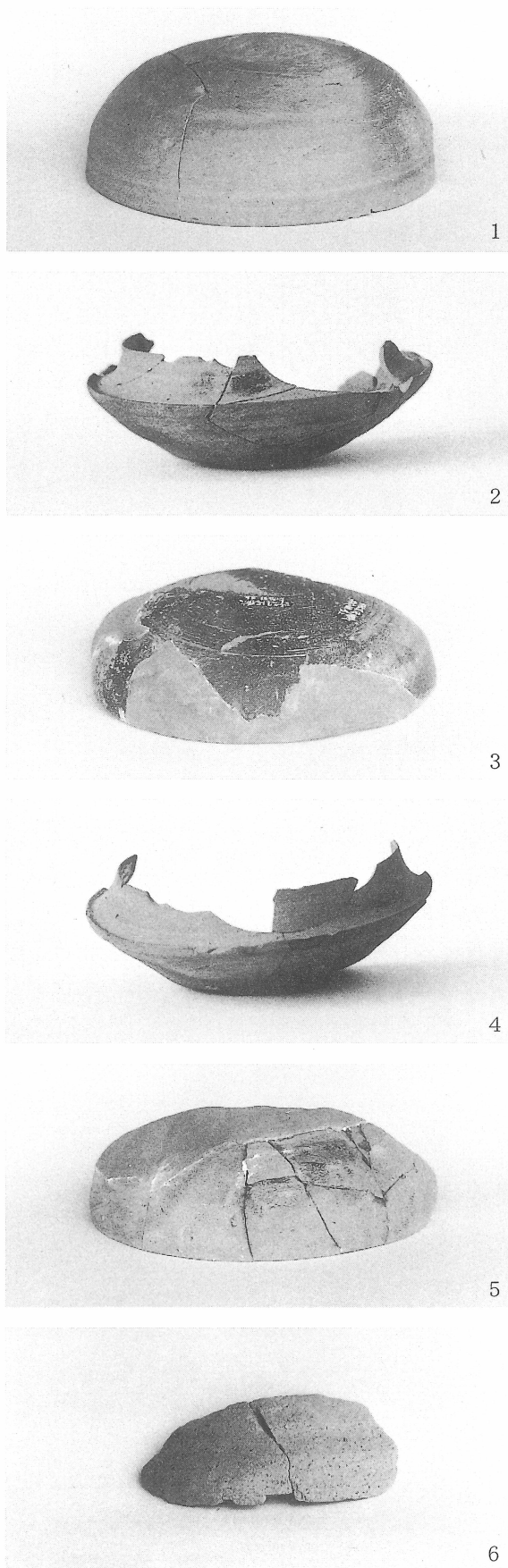


写真9 1号横穴墓出土遺物

色調は灰青色を呈し、胎土は1mm以下の白色粒子をわずかに含む。焼成は良好である。内面天井部はナデ、口縁部内面から外面にかけては回転ナデ、外面の天井部付近は回転ヘラケズリの調整である。口縁部はわずかに開き、口唇部は尖り、口唇内部に段をなす。

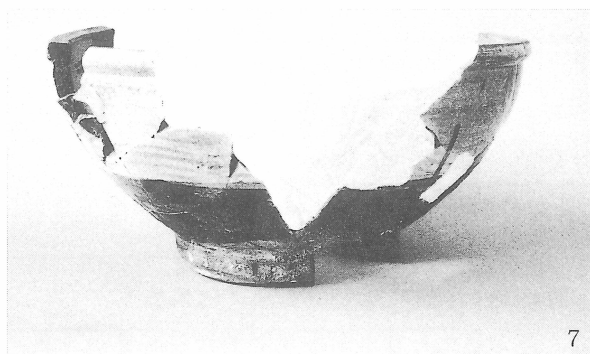


写真10 1号横穴墓出土遺物(陶器)

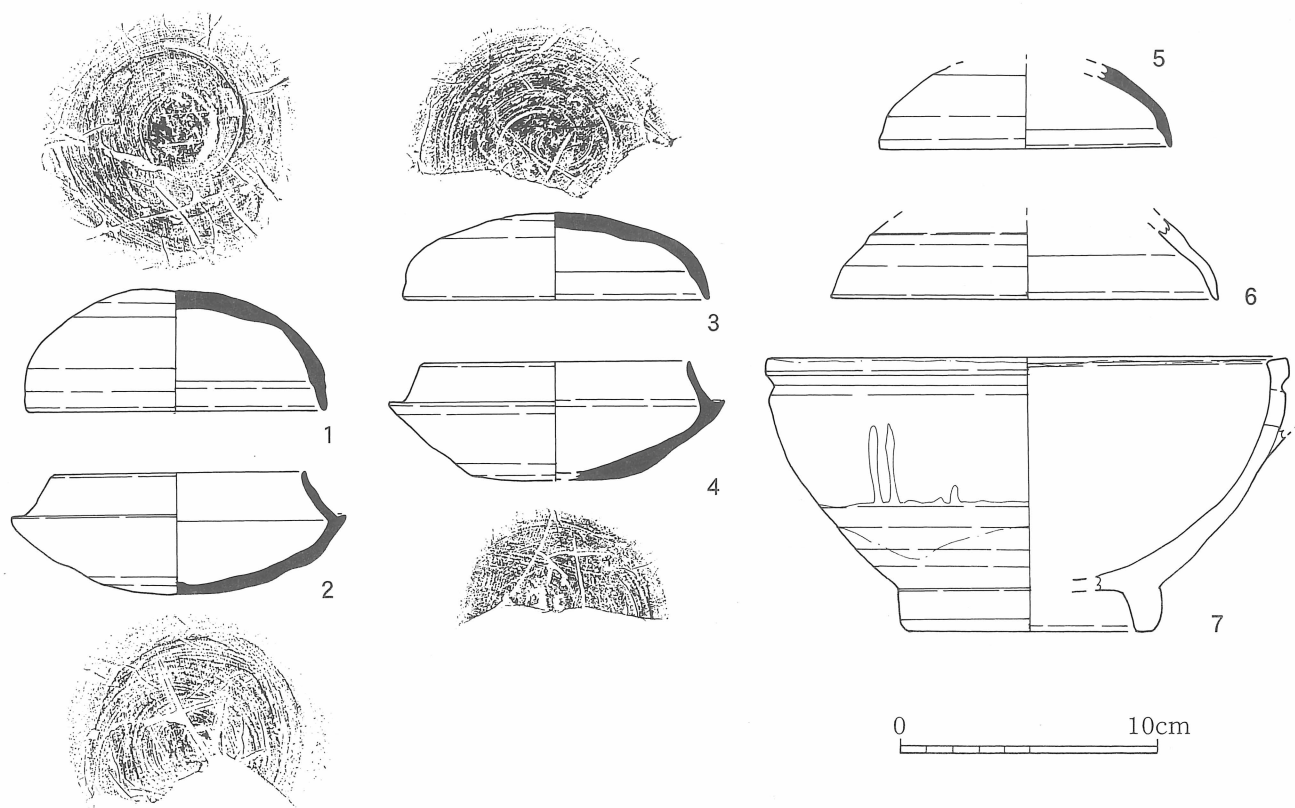
土師器

坏蓋 (6) 口縁部の細片で、復元口径13.0cmを測り、現存する器高は3.2cmである。色調

は橙褐色を呈し、胎土は精良で1mm以下の白色粒子をわずかに含む。焼成は不良であり、調整は磨耗のため詳細不明であるが、内外面とも回転ナデ仕上げか。体部中程に1条の沈線が巡り、段を有する。体部の張りは少ない。

陶器

片口 (7) 口径20.2cm、器高10.8cmを測る。口部はほとんど欠損する。口縁部は断面方形に肥厚する。赤茶褐色の素地に透明釉を掛け、その後長石釉とみられる灰白色の釉を施す。口縁部上面と外面下半分は露胎。胎土は精良、砂粒をほとんど含まない。焼成は良好である。高台は径9.6cm、高さ1.7cmを測り、削り出してつくる。



第6図 1号横穴墓出土遺物実測図 (1/3)

IV. まとめ

調査区内はみかん畑の開墾で、かなり掘削や削平されており、6,345㎡という広大な調査区に対して、遺構密度は非常に低い。4基あった横穴墓は、1980年刊行の福岡県文化財分布地図では3基が消滅しており、消滅した3基の場所については確認できなかったため、1号横穴墓のみの調査となった。

野広尾1号横穴墓の前庭部には果樹木が1本、横穴墓の入り口を隠すように植えられていたため、多少風化しながらも比較的残りが良かった。横穴墓内からの出土遺物はなかったが、前庭部から土器が出土しており、以下ではこれらについて検討したい。

出土遺物は非常に少なく、ほとんどが細片のため検討するのは須恵器蓋杯のみである。須恵器蓋杯の特徴からいえば、天井部と口縁部との境の稜はほとんどが淡いか又は消失しており、口唇部の段も消失傾向にある。また、杯身の立ち上がりはやや内傾していて長く、6世紀中頃から後半であると考えられる。蓋杯の出土は前庭部土層の上の方から床面直上土層まで幅広く、陶器も一部床面に近い層から出土したことから、前庭部は攪乱層であるだろう。

今回の発掘調査により、新たに検出された遺構はほとんどないが、周知の野広尾1号横穴墓の記録を残すことができた。今後の立花町の横穴墓調査及び筑後地区の横穴墓研究において、わずかなではあるがこれらの資料を活用していきたい。



写真11 発掘調査作業風景

報告書抄録

ふりがな	のびろおよこあなぼぐん							
書名	野広尾横穴墓群							
副書名	福岡県八女郡立花町大字北山所在横穴墓群の調査							
巻次	1							
シリーズ名	立花町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第11集							
編集者名	末継彬子							
編集機関	立花町教育委員会							
所在地	〒834-8555 福岡県八女郡立花町大字原島95-1 TEL (0943)23-5142							
発行年月日	西暦2006年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード					調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	m ²	調査原因
のびろお 野広尾	ふくおかけん 福岡県	40543	720159	33°	130°	平成16年	6,345	農業基盤 整備に伴う 発掘調査
よこあなぼぐん 横穴墓群	やめぐん 八女郡		ゝ	11′	34′	12月21日		
	たちばなまち 立花町		720162	26″	11″	ゝ		
	おおあさきたやま 大字北山							
	あざおおきこ 字大迫					平成17年		
	5307-19外					7月29日		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
野広尾 横穴墓群	墓地	古墳時代	横穴墓	土師器・須恵器・ 陶器				

野広尾横穴墓群
立花町文化財調査報告書
第11集

平成18年3月31日

発行 立花町教育委員会
福岡県八女郡立花町大字原島95-1
印刷 合資会社 東兄弟印刷所
福岡県八女市祈禱院563